

2020.4.19 神のいつくしみの主日

見ないのに信じる

ヨハネによる福音 20:19-31

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。これらのことが書かれたのは、あなたがた

が、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

説教

イエス逮捕の時、弟子たちはバラバラに逃げました。その後、また集まっていたようです。

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。（ヨハネ 20:19）

復活の日曜日の夕方、3日まえにバラバラに逃げた弟子たちは集まっています。でも中にはそれには加わらず別行動をとった弟子もいました。エマオの二人（ルカ 24:23 以下参照）もそうですし、トマスもそうでした。

トマスはラザロの時（よみがえり事件）「死のう」とまで言い切った弟子でした。

すると、ディディモと呼ばれるトマスが、仲間の弟子たちに、「わたしたちも行って、一緒に死のうではないか」と言った。ヨハネ 11:16

トマスが別行動をとっていたのはイエスを見捨てて逃げた仲間に愛想をつかしていたからかもしれません。また同時に自分にも嫌気をさしていたのかもしれない。だから一人になりたかった、仲間とは距離をおきたかったのでしょうか。

さて、トマス以外の弟子たちはいまのことばでいえば「三密」の部屋に閉じこもり、ユダヤ人の残党狩りを恐れてビクビクしていました。そこに復活のイエスが現れました。

その噂を聞き付けたのか、トマスが早速やってきてイエスのことを仲間に聞きただしますが、トマスは仲間のことばを疑います。

翌週の日曜日、イエスは三密の部屋にまた現れ、トマスを諭します。

イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」（ヨハネ 19:27）

トマスは疑いをはらすためにエビデンスを求め、イエスはエビデンスを与え

ながらもトマスを咎めています。やはり言葉になっている「エビデンス」は証拠という意味でつかわれます。トマスは「釘跡にわき腹に」と証拠を確かめるまでは信じないといひあります。彼はエビデンスを求めているわけです。イエスはそれを「見ないのに信じなさい」と諭しました。

科学：見て信じる

宗教：見ないで信じる

宗教と科学の違いは煎じ詰めるとこのようになります。

見てもいないのに見たような気になって信じる、トマス以外の弟子たちが三密状態で固まってひとつになっているように「いっしょ」にいることを望む、わたしたちは復活のイエスがトマスに語った諭しをいま一度深く、宗教のことばとして聴き直しましょう。

見もしないこと、証拠も確かでないことを信じ、バラバラでいながらもひとつになっている、復活のイエスはこのように教えています。
